

## 問48 統計

次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 建築着工統計調査報告（令和4年計。令和5年1月公表）によれば、令和4年の新設住宅の着工戸数のうち、持家は前年比で増加したが、貸家及び分譲住宅は前年比で減少した。
- 2 令和5年地価公示（令和5年3月公表）によれば、令和4年1月以降の1年間の住宅地の地価は、三大都市圏平均では下落したものの、それ以外の地方圏平均では上昇した。
- 3 令和5年版土地白書（令和5年6月公表）によれば、令和4年の全国の土地取引件数は約130万件となり、土地取引件数の対前年比はほぼ横ばいで推移している。
- 4 国土交通省の公表する不動産価格指数のうち、全国の商業用不動産総合の季節調整値は、2022年（令和4年）においては第2四半期で対前期比減となった。

### 解説

わかって合格る

第4編

Chap. 2

Sec. 4

- 1  令和4年（令和4年1月～令和4年12月）の新設住宅の着工戸数のうち、持家（前年比11.3%減）は前年比で「減少」しましたが、貸家（前年比7.4%増）も分譲住宅（前年比4.7%増）も、前年比で「増加」しました。
- 2  令和5年地価公示における、令和4年1月以降の1年間の住宅地の地価は、三大都市圏平均でも、2年連続で「上昇」しました。
- 3  令和4年の全国の土地取引件数は、約130万件となり、対前年比は「ほぼ横ばい」で推移しています。
- 4  全国の商業用不動産総合の季節調整値は、2022年（令和4年）においては、第2四半期で対前期比「増」となりました。

〔 正解 3 〕

#### ここに注目!

上記の問題は、令和4年度の本試験問題を今年度の宅建士試験対策用データを前提に改題したものです。この問題とあわせて、2023年度版『法律改正点レジュメ』等もご参照ください。